

東北大学大学院教育学研究科 教職員対象 ハラスメント研修会
「つくろう、ハラスメントのないキャンパス 2011」

実施報告書

大学院教育学研究科ハラスメント防止対策委員会

宮腰 英一 (委員長)
工藤 与志文 (副委員長)
本郷 一夫 (委員)
田中 真理 (委員)
加藤 道代 (委員)
菅原 正記 (事務長)

2011年7月

東北大学大学院教育学研究科ハラスメント研修会
「つくろう、ハラスメントのないキャンパス 2011」実施内容

この研修会は大学院教育学研究科ハラスメント防止対策委員会が主催し、本研究科の教職員を対象に行われた。

実施内容等は以下のとおりであった。

日 時：2010年7月21日(水)17:30-18:30
場 所：文科系総合研究棟 11階大会議室
講 師：東北大学学生相談所 池田忠義准教授
内 容：震災後の学生対応および留学生支援に関する留意点
- ハラスメント防止という観点も含めて -
参 加 者：教員25名、事務職員3名
主 催：教育学研究科ハラスメント防止委員会

内容の骨子

ハラスメントについて

- ・ハラスメントは、「力関係」を利用して行われる「人権侵害」であり「暴力」である。
- ・職務上の立場に「力」が付与されている上司や指導教員、研究室の「自立性」「密室性」という場の構造、日頃の関係性に課題がある場合は注意しなければならない。
- ・「学生に対する対応の著しい違い」によるハラスメントと、「学生への画一的・硬直的な対応」によるハラスメントが存在する。
- ・多様な学生（不登校傾向、発達障害、留学生、震災経験など）が存在するのであり、その指導・教育を行う教員は、自分自身の対応の幅を広げていく必要がある。

震災の心身への影響

- ・心理・感情面、思考面、身体面、行動面等、震災の影響は多方面にあらわれる。
- ・震災後、最初から強く落ち込む場合や、一時的に積極的に高揚し、その後落ち込む場合、軽い一定の落ち込みが続いていたが何らかの出来事を契機に強く落ちこむ場合など、時間による影響の変化には様々なパターンがある。
- ・大学生への震災の影響は、「学業・研究」「進路」「人間関係」等の現実面への支障と不安や抑うつ等心理面への影響が相互関連的にみられている。

留学生生活を支えるもの

- ・留学生といっても、性格、価値観、国籍、民族、母国での社会的立場、学力、日本語能力等、皆多様であるが、仙台で新たな人間関係を築かなければならないことや、学業・研究で一定水準以上の結果を出さなければならないことは共通である。
- ・留学生生活では、底辺に日常生活、その上に対人関係、それらがあって課題遂行が達成される。日常生活や対人関係という土台のないところに課題達成は望めない。その土台となる日常生活や対人関係が日本人との間に大きな違いがあることに注意が必要。従って、日常生活、対人関係、課題遂行の3層を視野に入れた対応や支援が重要となる。

学生の変化に気づくこと

- ・学業・研究への取り組み（遅刻や欠席が多くなるなど）、言動（不平・不満が多くなる、物忘れがひどくなるなど）、対人関係（人付き合いが悪くなるなど）、身体状況（体調不良が続く、食欲がないなど）が変化のサインとなる。

気になる学生対応の基本

- ・観察すること（「いつもと違う」「みんなと違う」）、「判断」することと「判断しすぎない」こと、聴くことを踏まえて、より良い教育をめざし、自分自身の柔軟性と開放性を保つ心がけが必要である。

アンケート調査結果のまとめ

1 アンケートの内容

設問 本日の研修についてうかがいます。あなたの考えに近い数字を で囲んで下さい。

[1] 本日の研修内容は、役にたちそうですか。

(たいへん役にたちそう 6 から、全然役にたたなそう 1 までの6段階評定)

[2] 本日の研修企画は、意義があると思いますか。

(たいへん意義があった 6 ~ 全然意義がなかった 1)

[3] 本日のような研修企画を、本学部・研究科が今後も継続することについてどう思いますか。

(ぜひ継続すべき 6 ~ まったく継続の必要性はない 1)

[4] 本日のハラスメント研修に関して意見や感想がありましたらお書きください。

(自由記述)

設問 今後のハラスメント防止対策に期待することなど、意見や感想がありましたらご記入ください。(自由記述)

2 アンケートへの回答の集計

2-1 回答の概況

・回答者数 23 名;うち 1 名は設問 [1] から [3] に無回答

2-2 設問 の [1] ~ [3] の各項目についての評定値の分布は Table1 のとおりであった。

Table 1 設問 の項目別評定値の分布 数値は人数(回答者中に占める百分率)

評価値項目	6	5	4	3	2以下	計
1 役に立つ	6 (27.2)	8 (36.4)	8 (36.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	22 (100)
2 意義がある	4 (18.2)	11 (50.0)	7 (31.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	22 (100)
3 継続すべき	3 (13.6)	10 (45.5)	8 (36.4)	1 (4.5)	0 (0.0)	22 (100)

2-3 設問 の 4 に対する回答(自由記述;9 件)

A 具体的な情報が得られたとするもの (8 件)

- ・最後のスライドに全面的に同意します。ありがとうございました。
- ・「多重的支援」の必要性はこれまで気づかなかった。日常的な変化についても気をつけたいと思った。
- ・教員自身の柔軟性、開放性を保つことが重要であるというのは、本当にそうなんだ！！と思いました。教員自身の問題だけでなく、組織運営の問題でもあるわけですね。
- ・留学生への対応について参考になった。
- ・留学生に関する話は参考になった。

- ・大変役に立つ情報をありがとうございました。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。
- ・留学生への対応については参考になる点があった。
- ・震災をめぐる学生対応には、現在、指導学生にもあてはまることが多くあり、大変参考になりました。3つのレベルを日常認識していることの重要性もあらためて考えさせられました。

B 講話内容についての要望・意見、プレゼンテーションの進め方に関するもの等(5件)

- ・「より良い対応」は本当にその通りと思います。ただ、上司 - 部下関係を念頭に置くと、別のとらえ方が求められるのでしょうか。次の機会にお話いただければ幸いです。
- ・大変わかりやすかった。もう少し事例を聞きたかった。
- ・興味深い話だけに突っ込んで質疑のできる時間があればと思いました。
- ・FDの中核部分を機会があればお願いしたい。
- ・本研究科のFDのテーマがほとんどハラスメントばかりなのが、現状を象徴していると言ってよいか…。

2-4 設問 に対する回答(自由記述;5件)

- ・防止・対策はFDで立てられるものなのでしょうか？
- ・実際の case study(対応例を検討しあう形の)
- ・学外の先生のお話も伺いたいです。
- ・研究生への目が行き届かないが故に起こっているハラスメント(特に海外からの留学生に対するもの)への防止対策
- ・問題の所在は明らかになっていると思う。どういう具体策をとるかという段階ではないか。

3 まとめ

3-1 今回のFD研修についての評価

全体としては肯定的評価(6段階で4以上の分布)となっているが、過去3年間のFD研修の事後アンケート得点分布から推移をみると、研修への評価が年々下がってきていることがわかる。特に、質問項目1の[2]は、「6(大変役に立ちそう)」は、2009年は34.8%、2010年は50.0%なのに対して、2011年は18.2%であった。「6」と「5」を合わせても、87.0%(2009) 72.2%(2010) 68.2%(2011)と低下傾向にある。[3]についても同様で、「6(是非継続すべき)」は2009年では47.8%、2010年は50.0%、2011年は13.6%であった。「6」と「5」を合わせても、78.2%(2009) 72.2%(2010) 59.1%(2011)という低下を示している。ハラスメントに関するFD研修は毎年継続して行っているため、近年は「留学生」「震災」との関係など、学生の多様な状況をとらえた内容の工夫をしてきた。自由記述では参考になったという声も上がっているが、評価点からみた限り、有効性に対してはやや厳しい評価が下されている。

3-2 今後のFD研修のあり方についての意見

講義形式ではなく討議形式を望む意見、一般的な問題性の確認ではなく個別事例を意識した対応

に踏み込むことを望む意見、第三者的な外部の講話を望む意見、FDによる防止対策効果を疑問視する意見など、過去の踏襲ではなく新たな研修のあり方を問う意見が出され、上記に示したような評定値の低下とともに、今後の防止対策研修のあり方が問われる結果となった。